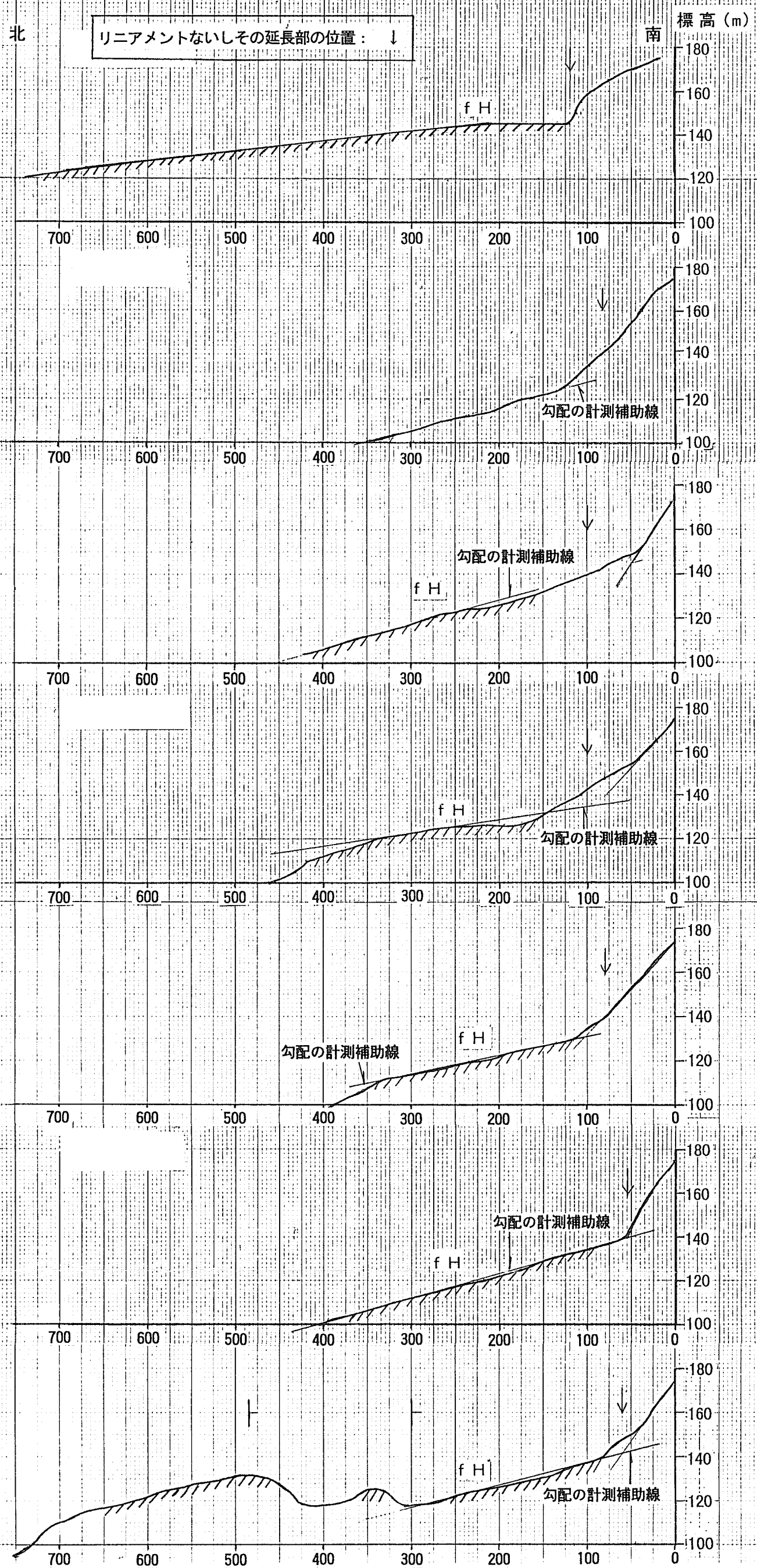
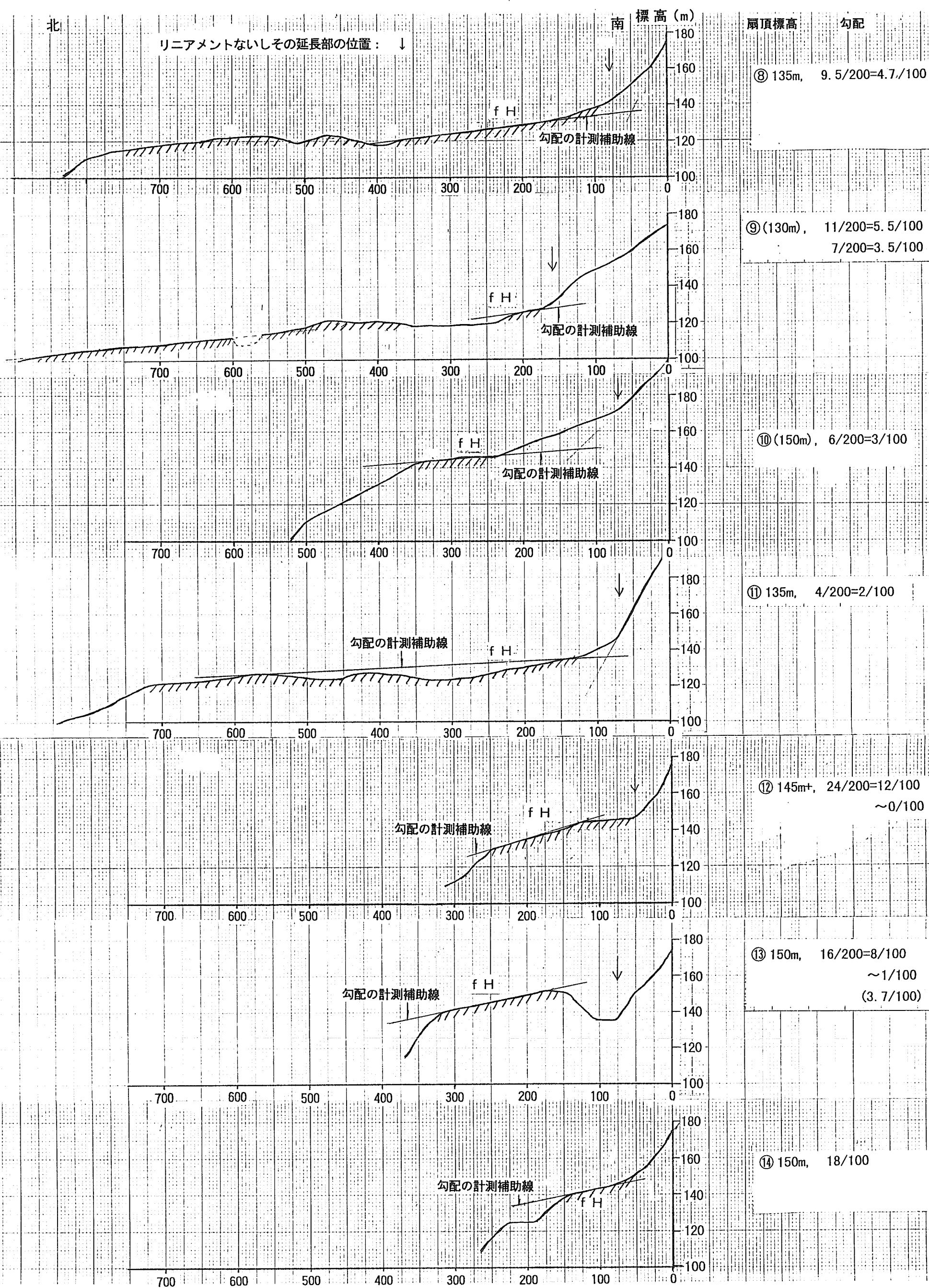




扇頂標高	勾配
① 145m,	5/250=2/100 ?
② 130m,	22/200=11/100
③ 135m,	29/250=11.6/100
④ 135m,	12/200=6/100
⑤ 130m,	17/200=8.5/100
⑥ 140m,	23/200=11.5/100
⑦ 140m+,	21/200=10.5/100

図3. 2. 3-10 (1) 内木場地区 f H面地形断面図 (1)



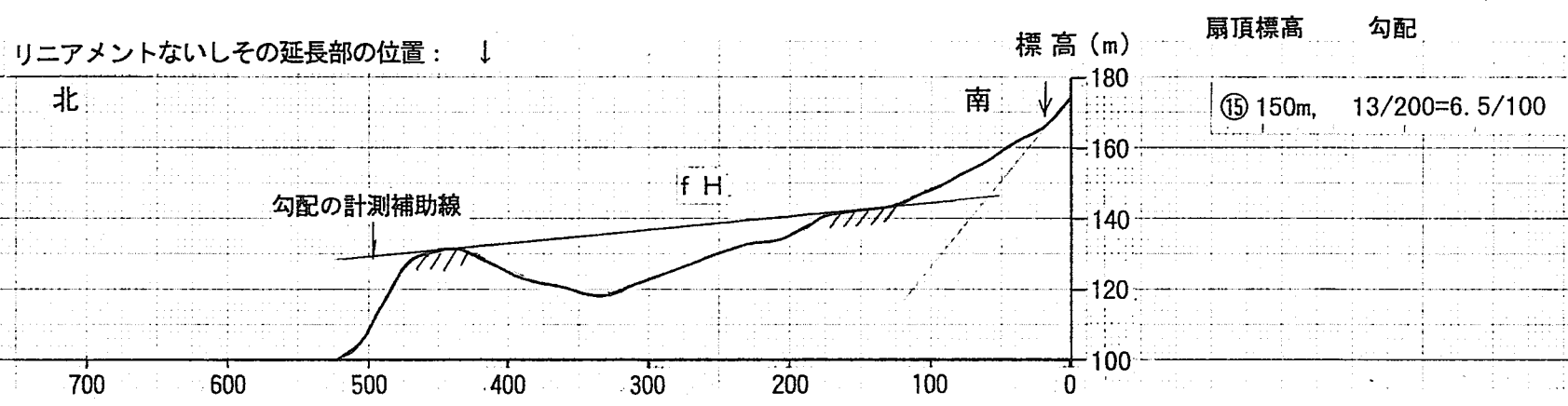


図3. 2. 3-10 (3) 内木場地区 f H面地形断面図 (3)

南東

地表には変位はみられない

北西

高位扇狀地
堆積物



基盤

断層部

礫層南傾斜 層厚厚い

A, Bの断層は上位の砂礫層に変位を与えていない。地形面にも変位は見られない

(A地点)

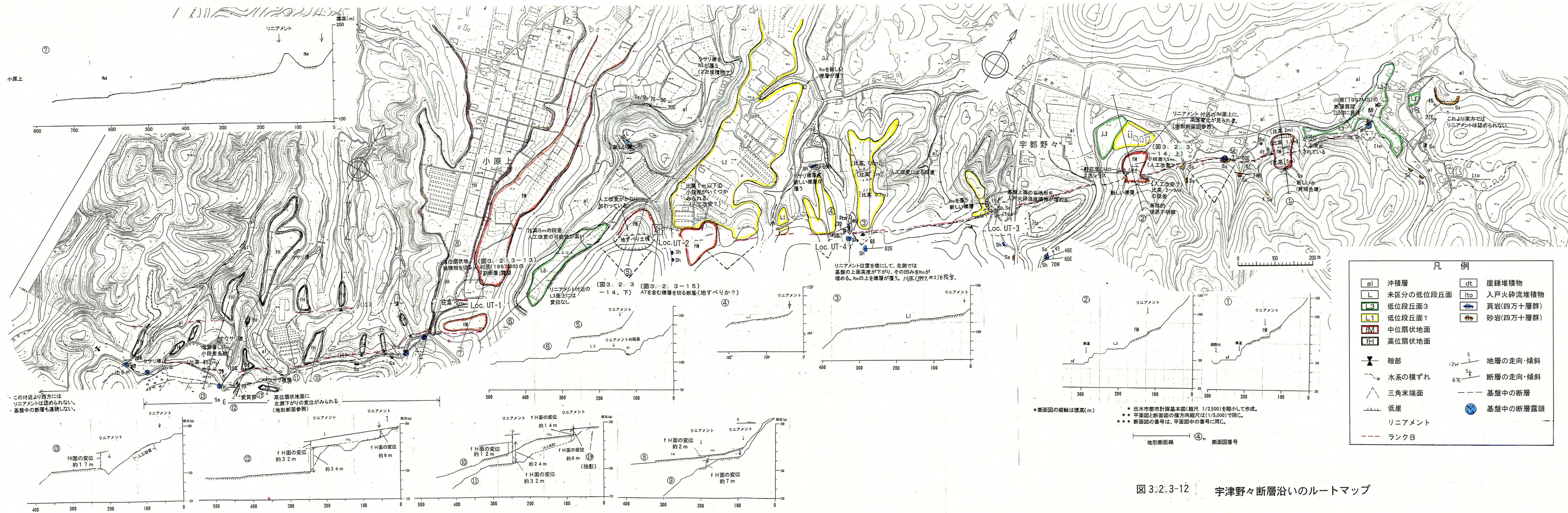
(B地点)

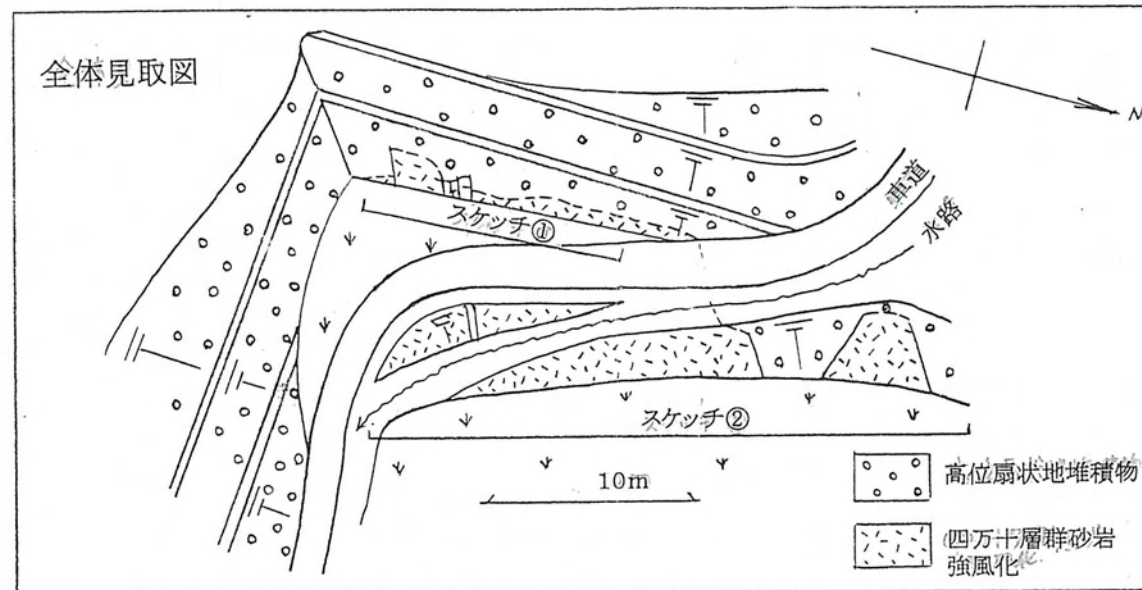
※東西性. 高角の断層により、高位扇状地堆積物
中の礫層が約 1.2m 北側へ落ちている

※断層による変位は、約 1m 北落ち

※露頭位置は、図3. 2. 3-9に示す。

図3. 2. 3-11 高位扇状地堆積物の断層による変形(高尾野町鳥越浄水場西 Loc. UK-2)





※露頭位置は、図3. 2. 3-12に示す。

◎ 宇都野々断層本体から北へ50mの地点
この地点で川原(1997, MS)は、「高位扇状地堆積物を切る断層」を報告している。ただし、変位センスが北側上がりで、断層本体で異なるため副次的な断層と考えている。

◎ この断層による変位は、上位の礫層の中で止まっている。

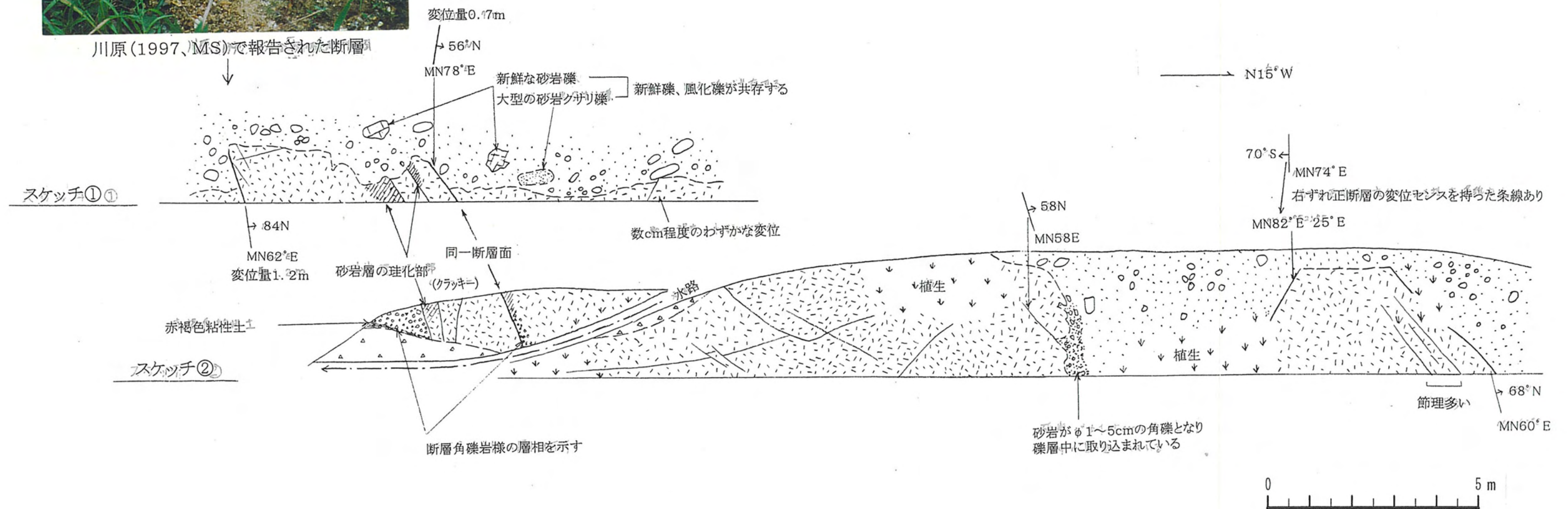


図3. 2. 3-13 小原上整備地小断層帯スケッチ (Loc. UT-1)

※位置は、図3. 2. 3-12に示す。



(君名川地区) 比高1.5mの低崖



(武本南方) 比高2.4mの低崖

図3. 2. 3-14 リニアメント付近の中位扇状地上の段差様地形

※露頭位置は、図3. 2. 3-12に示す。

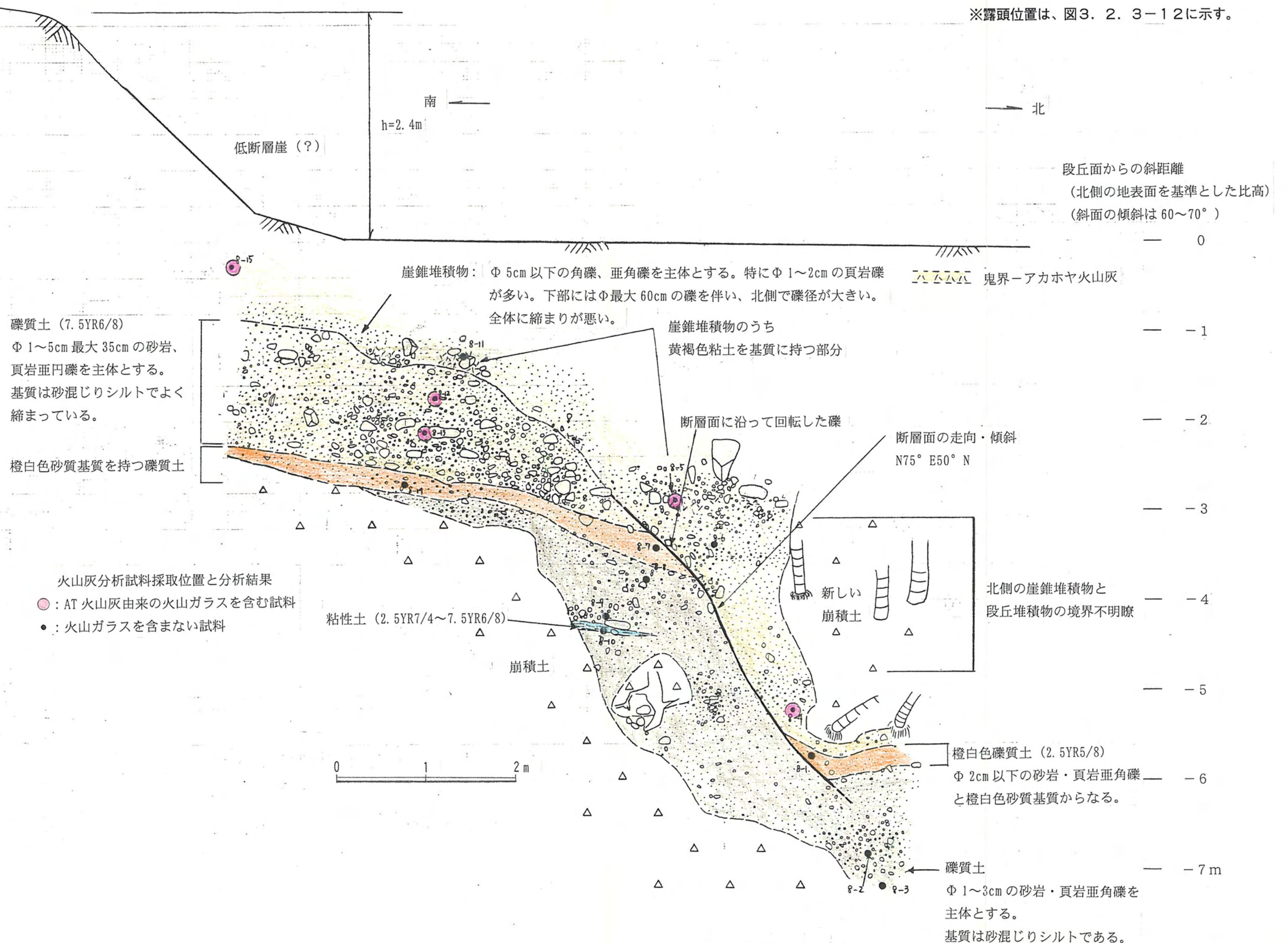


図3. 2. 3-15 (1) 武本南方の段差地形横の露頭 (Loc. UT-2)

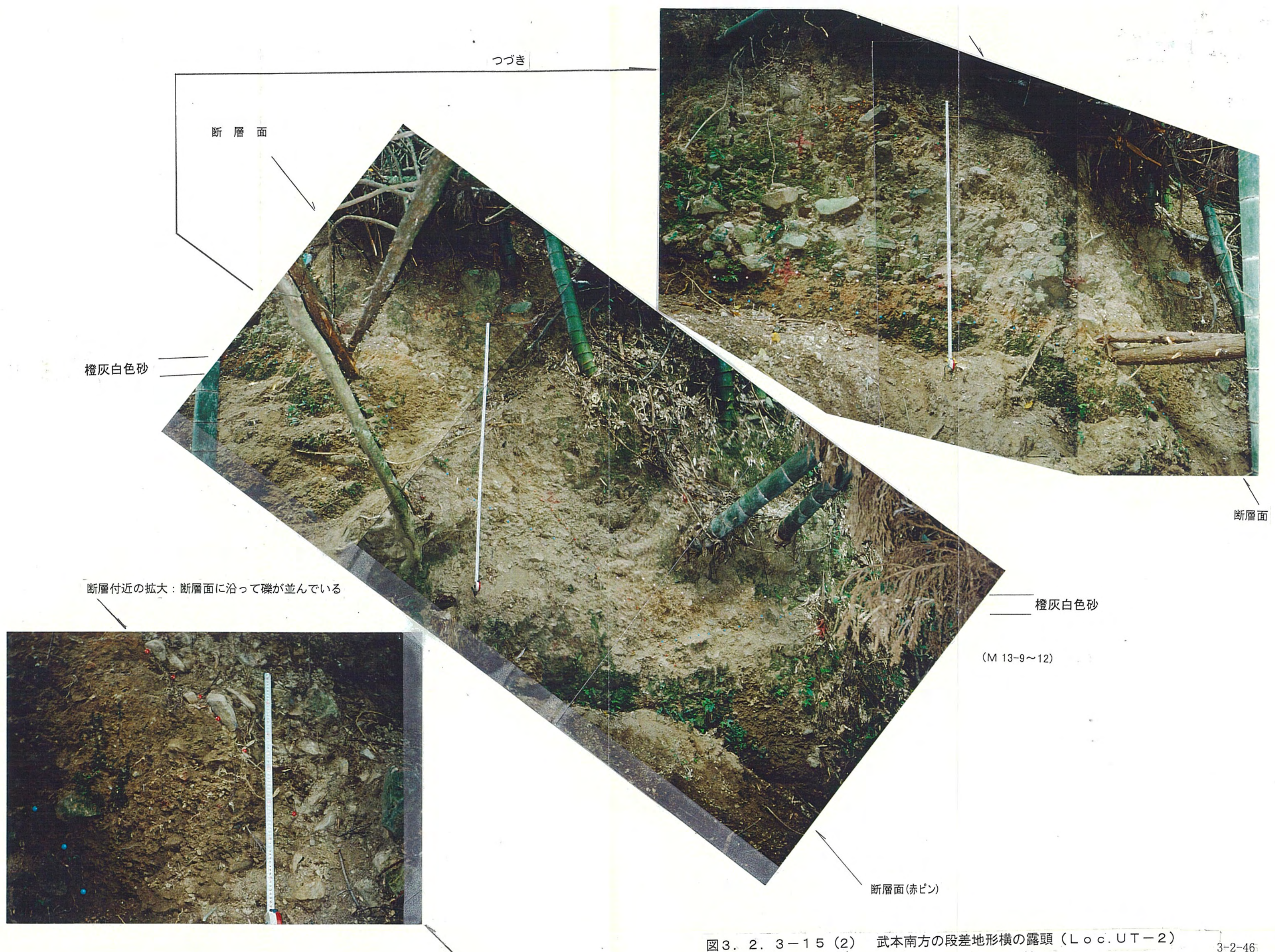


図 3. 2. 3-15 (2) 武本南方の段差地形横の露頭 (Loc. UT-2)